



会報
京都マイコン研究会

第 130 号
1998年 5月1日発行
発行人 圓口 佳昭
事務局 京都府八幡市八幡城之内 20
TEL/FAX 075-981-0063, 982-8064
nomasuda@mbox.kyoto-inet.or.jp
KYOMYCOM@mbox.kyoto-inet.or.jp

トピックスorニュース

岩井宏安

TEXT文とHTML、どちらが有利か一言で述べられません。メリット、デメリットを比較した時、HTMLが優れているようです。E-MAILはWINDOWSと限定できれば、TEXT文で十分事足りませんが、MacintoshやUNIX、それに準じるOSが混在した環境でのメールは、文字DATAの互換性が乏しくなります。がHTMLは互換性を保ち有利です。

HTMLは、Hyper Text Markup Languageの略でタグ命令が含まれたテキストファイルです。このタグにより、文字の大きさや色などの装飾ができます。また画像や動画などハイパーリンクによる貼り付けの指定が出来ます。WWWブラウザでタグ命令を解釈して表示していますが、MSやNSはそれぞれ独自のサポートで表示できない場合があるのがデメリットと考えられます。

Windows95にはインターネットエクスプローラ(WWWブラウザ)が、ハンドルされているのでメジャーとなりつつありますが、老舗のNetscapeNavigatorを使っている人も多く、混在しています。したがって、ただのTEXTで事足りると思うのが現状です。

TEXTとHTMLを比較するとHTMLのファイルサイズは大きくなりますが、WORDや一太郎と比べるとかなり小さくなります。また、HTMLはテキストファイルであり、文字だけの編集はメモ帳でもできます。WORDや一太郎のようなワープロで作成した、文字DATAはHTMLに変換できるが、ワープロ独自のDATAには変換できない。

保存のことを意識すればHTMLが統一された時、メーカーが開発したワープロソフトを無理に使用する必要が無いのではと思いますが如何でしょうか。他人の考えは別に気にする必要はありません。決めるのは自分です。相手に自分の考えを正確に伝達できればそれでOKです。

最後にお願ひ、文字化けありましたらお教え下さい。

次回例会

日時 98年 5月 2日(土) (pm.6:00)

場所 大山崎ふるさとセンター

例会内容

18:00 情報交換 近況報告 疑問質問

19:00 新年度専門部発足、役員会日程

20:30 5月GWのイベント?(予定)

(WIN98の体験会)

自由参加 21:30~

よもやま話PCの悩み相談可

二次会談

例会報告

1998年4月4日 (pm.6:30)
場所 大山崎ふるさとセンター
参加者氏名 若林、中辻、若井、中村、前田
溝口、増田、圓口、岩井、河原
内容 97年度 部会報告 10名
インターネット部会報告

月例部会

インターネット部会 (若井・若林・増田・前田)
4月18日(土) PM.19:00~19日(日) AM.1:00
場所 事務局
内容 月次ホームページ改訂/ホームページ掲示板
ネットワークと投資・データベースを利用
した資産運用法/実用報告その他

やっと、ホームページを再開しました。お暇なときにお立ち寄り下さい。
アクセス先は下の2つですが、どちらからアクセスされても内容は同じです。

皆さんへ 河原 : tomoppy
E-Mail :
HomePage : <http://www2s.biglobe.ne.jp/~tomoppy/> <http://www.twin.ne.jp/~tomoppy/>

bobup_iy の 忘 備 録

HIROYASU. IWA I

Bobup_iy の Windows98 基礎の基礎

Windows95からWindows98になるとどう変わるのでしょうか

IE4を使用している方は、Windows98のフェイスを見てしまったのであまり変わったように見えないようです。

FastBootBIOS・Mapcache・WinAlign・FAT32・WDM、この5つの単語がOSとして大きく変わったところです。

FastBootBIOS

①ハードウェア（メモリ・PnP機器）の設定を初期化する。

②システム（OS）の構成ファイルを読み込む。

この①②の課程を経てWindows95は起動しています。

①ハードウェア（メモリ・PnP機器）の設定を初期化する。

Windows95に無かったBIOSの規格を、Windows98ではFastBootBIOSと規格化し、メモリ・PnP機器の初期化に要する時間を短縮しました。

FastBootBIOSは、搭載メモリの種類を調べるフラグがあり、フラグが0（DIMMメモリ）ならばチェックをせず立ち上がり、フラグが1（ECCメモリ）ならばメモリ全域に『0』を書き込み立ち上がります。

DIMMメモリは、メモリサイズを通知する機構があり、チェックせずに立ち上げる事ができるのでこの恩恵を受けられますが、ECCメモリはエラーチェック／修正機構を持ったメモリであり、このメリットが有りません。所持されているマシンがECCメモリ搭載機ならばWindows98にバージョンアップしてもメリットは少ないので、マシンの詳細を調べてから、バージョンアップするかどうかを決める必要があります。また、新機種を選択時にはDIMMのメモリかどうかの気配りが必要となります。そして肝心なのは、FastBootBIOSを搭載しているかどうかです。PC98対応と宣伝しているマシンも良く調べる必要が有ります。（余談ですがNECのNX機は対応済みです。）

もう一つ、FastBootBIOSは立上時間を短縮する為に、Plug&Play機器の設定をしたり、しなかったり出来ます。Windows95やWindows98はOS自体で『割り込み』『使用メモリ』『I/Oポート』などの設定を行うので、今までのBIOSは、Windowsが立ちあがる前に設定をしたので二度手間をしています。FastBootBIOSはPlug&Playに対応したOSかどうかをフラグで判断し、フラグ0なら設定して、フラグ1なら設定せずに立ち上がり、立上時間を短縮できます。

②システム（OS）の構成ファイルを読み込む。

必要なドライバーだけロードして、システムの読み込み時間を短縮している。

Windows95は設定したドライバーは全て起動時に読み込んでいたが、Windows98は必要なドライバーだけを読み込み、必要な時に必要なドライバーをロードするようになった。（MS-DOSのadddriveもどき）

終了時間も unnecessary ドライバーが無いので短縮できる。

Windows起動時に『f・8』キーによるメニュー（セーフモード・MS-DOSモード）は『Ctrl』キーに替り、時間待ちの2秒が無くなった。

レジストリ（ハード・ソフトの設定）ファイルが小さくなった。

周辺機器の追加やアプリのインストールをすると、レジストリファイルは肥大するだけで、周辺機器の削除やアプリのアンインストールでは縮小せず、肥大したままを全て読み込み、起動に時間がかかったが、レジストリチェッカーでレジストリの不要を調べ、コンパクト化している。

HDDのファイル配置を最適化。

『レジスター⇄メモリ』と『HDD⇄メモリ』のデータの転送時間は、非常に大きな開きがあり、CPUのクロックを上げてても起動時間は認識できるほど短縮できない。

HDDから少しでも早くデータを読み出すには、ヘッドが移動するシーク時間を短縮する必要が有り、デフラグのディスク最適化機能が搭載された。

[デフラグ=ファイルを連続した領域に配置しなおすツール]

デフラグが強化され、アプリが使うファイルや頻度をログファイルに記録し、この記録をデフラグ時に参照して、シーク時間が短くなるように、ファイルをHDDに配置する。

Windows95は周辺機器の終了処理（DELETE DRIVEもどき）をすべてしていたが、Windows98は一部の機器をのぞき、終了処理をしないので時間の短縮が出来る。そして、終了のサウンドは設定しないほうがより早く終了できる。

FAT32

[FAT=File Allocation Table・ディスク中のファイルの位置を表わすアドレス台帳]

Windows95におけるHDDの管理エリアは、FAT16を採用し、2Gバイトが最大であったが、OSR2からはFAT32を導入したので、2Tバイトまで管理エリアは広がった。

基礎知識のレベルを統一する為にFATの仕組みを復習しておきましょう。

FD・HDは、ともに『システムエリア』と『ユーザーエリア』に分かれています。

システムエリアにはディスクの物理的な管理情報やFATが含まれます。

ユーザーエリアにはファイル名や更新日時、ファイルサイズ、データが格納されています。ディスク上の全ての情報は、クラスタと呼ばれる領域に分けて管理しています。

ディスクはクラスタに分け、全てアドレス（番地）で管理しています。

FAT16のFATデータは16ビットで表現され、クラスタの飛び先アドレスに対応していて、データが読み込まれます。必ずしも隣り合ったクラスタのデータを読み込むのではなく、FATデータに書かれたアドレスのクラスタの中身を読み込むのです。

16ビットで表現されるアドレスは、0000h-FFFFhで0~65536個のクラスタを管理しています。

1クラスタの最大値は32KBで32KB×65536=2Gバイトとなり、FAT16の管理では2Gバイトまでしか1つのドライブとして扱えない。

1クラスタ32KBの管理において、1バイトのデータでも32KBのエリアを消費するので無駄も多い。

FAT32ではFATデータは28ビットで表現され、8Tバイトまで管理できるが、現在は2Tバイト（2048GB）に制限している。市販されている8GバイトのHDDは1クラスタ4KBで管理できる最大容量のものです。

[FAT32]		[FAT16]	
ドライブ容量	クラスタサイズ	ドライブ容量	クラスタサイズ
512M~8G	4K	0MB~32MB	512B
8GB~16GB	8K	32MB~64MB	1K
16GB~32GB	16K	64MB~127MB	2k
32GB以上	32K	128MB~255MB	4k
		256MB~511MB	8k
		512MB~1023MB	16k
		1024MB~2048MB	32k

メリット

FAT32は、小さなファイルを多数保存でき、HDの有効利用が可能となった。

FAT16では、ルートディレクトリに、サブディレクトリが512個と制限があったが、FAT32ではHDDが許すだけファイル・フォルダを作成できる。

デメリット

512MB以下のHDはサポートできない。

Windows98以外のOSからアクセスできない。（MS-DOS・NT）

DriveSpaceで圧縮できない。

FAT16からFAT32の変換は可、逆は不可。

OSR2ではFAT32をサポートしていたが、ディスクを細かく分けて管理するため、参照しなければならないFATが多く、読み書きに時間を要したが、ファイルアクセスの改良、マルチタスク処理能力の強化などFAT32を生かす仕組み

が取り入れられている。

アプリケーションの起動時、FAT32は4KBのクラスタで管理されているので、読み取るクラスタを隣接させる事ができ、素早く立ち上がる。ただし、1回目の起動にはログファイルの作成の為時間はかかるが、2回目から起動時間は短縮される。

Mapcache

実装されたメモリをより効率的に管理を行う為のキャッシュシステム。

まずWindows95のメモリ管理を理解して下さい。

Windows95にはV C A C H Eというディスクキャッシュが使われている。

アプリケーションを立ち上げると、その内容は仮想アドレス空間とV C A C H Eにコピーされ、仮想アドレス空間の内容が実行される。

仮想アドレス空間とは、本体内の物理メモリと、スワップファイルによる仮想メモリを統合的に管理するものである。スワップが起らない限り、仮想アドレス空間とはいっても、使われるのはパソコン本体のメインメモリだ。

再度同じアプリケーションが起動されると、WindowsはまずV C A C H Eの内容をチェックする。もしV C A C H Eにそのデータがなければ、ディスクを読みに行く。これがV C A C H Eの仕組みだ。

メインメモリ中に仮想アドレス空間と、V C A C H Eの領域があり、同じ内容のデータが2つ存在する事になる。この無駄を省く為に、MapCacheがある。

アプリケーションが起動すると、その内容は、V C A C H Eにだけ読み込まれ、仮想アドレス空間にはポインタ（そのアプリケーションがV C A C H E上のどこに置かれているかという位置情報）だけを書き込む。アプリケーションの実行はV C A C H Eから直接行われる。これによって、メインメモリの消費も少なく有効活用でき、スワップも減少する。仮想アドレス空間へのコピーも無くなりアプリケーションの起動も早くなる。

WinAlign

Mapcacheのメモリ配置に合わせてファイル内のプログラム配置を最適化する。

WinAlignは、MapCacheがより効率的に動作するようにファイルを最適化するツールだ。

Windowsはメモリを4KB単位のページとして管理している。一方、アプリケーションファイル（EXE・DLL）内部のヘッダー（そのアプリケーションに関する各種の情報が含まれる）や、各セクションは、512バイト単位で構成されている。アプリケーションを起動すると、それぞれのセクションは4KB単位のメモリページに読み込まれる。したがって、3KBのセクションだから1ページのメモリに収まるはずなのに、2ページに渡るということも十分にある。この場合、Windowsシステムが特定のセクションを呼び出すときには1ページでなく2ページのメモリにアクセスしなければならないわけだ。

この説明は理解しにくい、Windows95、Windows98いずれも、メモリを4KB単位のページとして管理している。Windows98のファイルの扱いか方は、各セクションが4KBの倍数に満たないときには隙間を入れて、4KBの倍数単位に揃えてメモリに読み込んでいる。Windows95ではメモリの消費は少なかったが、4KBのつなぎ目をまたいで読み込まれていたため、4KB以下のセクションでも2ページに渡りアクセスしていた事が多くあった。

そこでWinAlignの登場となる。このツールは、アプリケーションファイルに適当な隙間を入れて各セクションを4KBごとに揃える。こうしておけば、システムがアクセスするメモリページが少なくて済む。

Windows98標準のファイルはすでにWinAlignによって位置合わせが行われている。

Windows98ではシステムファイルがWinAlignで最適化されている（セットアップの最終段階で実行される）。また、WinAlignは、チューンナップウイザードの中で『アプリケーションの起動チューンナップ』という作業からも実行される。さらに、すべてのバイナリファイルに対してかけられるというのではなく、不適なファイルの場合には最適化は行われないようになっている。

また、ソフトウェアメーカーに対しては、WinAlignによる処理を行って出荷するように通知されているので、今後出てくるアプリケーションは心配は無いだろう。注意しなければならないのは、既存のアプリケーションに、ユーザがWinAlignをかける場合、WinAlignはファイルの内容を書き換える、つまりファイルの内容やファイルのサイズが変わってしまう。そのため、自分自身の内容をチェックする事故診断機能を持っているアプリケーションが動作しなかったり、ウイルスチェッカーに警告される可能性は十分にありえる。

メモリを効率的に扱うためのWinAlignだが、FAT32と組み合わせる事でさらに効果を発揮する。実行ファイル内のセクションが4KB単位になっているので、読み込まれる際にアクセスするクラスタの数が減り、速度が向上するのだ。システムやアプリケーションの起動、終了の時間短縮に投入された技術であったが、周辺機器に対するサポートも大きく変わった。

WDM (Win32 Driver Model)

Windows98は95で使用していた、仮想デバイスドライバ(VxD)も使えるが、新たに、デバイスコントロールにWDM (Win32 Driver Model)を導入した。

WDMのメリット①

Windows98とWindowsNT5.0共通のドライバが使える。

Windows98には、NTKERNというVxDが搭載されており、Windows98とWindowsNT5.0の違いを吸収している。NTKERNによりドライバーが共通化したので、周辺機器メーカーは大きなメリットを得た。(OSごとにドライバを開発する必要が無くなった)

WDMのメリット②

多様な機器に対応できる、クラスドライバとミニドライバで構成されている。

Windows95で使用していたドライバの名前をかえたのでない。クラスというのは機器の種類を表わすが、マウス、スキャナなど特定の機器だけでなく、ユーザからの入力に関するもの、大量のデータをリアルタイムに扱うものもサポートしている。

USBは周辺機器127個までハブにより接続できる。おもにキーボード、マウス、プリンタ、モデムなどの接続に使われる。

IEEE1394 (iLink)は50Mバイト/秒の転送速度を持ちリアルタイムにデータが送受信できる。画像や音声のマルチメディアデータ使用するデジタルビデオカメラなどに適している。

USB、IEEE1394ともにシリアルバス的一种である。そしてWDMの基本である。

DVD-ROM・UDF(Universal Disk Filesystem)を標準で搭載している。

HID.....キーボード、マウス、ジョイスティックなどユーザが入力を行う機器

ストリーミングデバイス.....大量のデータをリアルタイムに扱う機器

WDMオーディオ.....

[例] DVDの映画を見ながら、DirectXのゲームと、MS-DOSのゲームを同時にして、メール着信音を鳴らす事ができる。音響機器の同時使用が可能。

Windows98でサポートされるWDMのデバイスクラス

イメージ.....デジカメやスキャナなど画像入出力機器

オーディオ.....スピーカやマイクなどの音響機器

コミュニケーション.....モデムやTAなど通信関連機器

ストリーミングデバイス.....ビデオカメラやDVDなど動画に関連するデバイス

HID (HumanInterfaceDeviceヒューマンインターフェイスデバイス)

.....マウスやキーボード、ジョイスティックなどゲームデバイス

.....モニタ。コンピュータを使う上で基本となる入出力機器

『FastBootBIOS』『FAT32』『Mapcache』『WinAlign』『WDM』この五つについて、Oh!PC(4/15 P170)を参考にして記しましたが、消化不良の点は否めません。

パーソナルコンピュータはWindows98、企業LANのOSにはJAVAが導入されようとしている現在、私たちPCオタクも最先端から置いてきぼりを食らわぬうちに、Windows98に的を絞った知識を交換して武装し、Windows98を呑み込む勢いが必要です。

いま手持ちのPC、即ち『FastBootBIOS』が無いPCにWindows98をインストールしても、パフォーマンスは改善されない。どのような形で供給されるかわからない。

ウインテルが提唱する、PC98仕様のハードにWindows98が搭載されてこそ真価を発揮するものといえる。したがって、バグフィクスの済んだ一年後の1999年春が買い時です。

プロフィール 渡辺 昇

私は、昭和27年に、東京都杉並区西荻北3の23で、ごく普通の家庭(?)の長男として生まれました。父、母、2つ違いの姉、祖母、そして、私の5人家族でした。幼稚園に入る前ぐらいだったと思います。父の会社の関係で、大阪の豊中市に引っ越ししました。

幼稚園は、阪急豊中駅の南西に今もある愛光幼稚園でした。幼い頃は、幼稚園に行くのが嫌で、よく、亡くなった祖母についてきてもらったものです。まことに、恥ずかしい限りです。教室の窓から、祖母を捜して安心した時のこと、祖母は、教室の窓のすぐ下に座っておりました。それから、タゴウ先生という若い先生のピアノの側で、手足をばたばたしながら、泣きわめいたことなど、断片的な記憶がなつかしく、思い出されます。そういえば、給食を食べるのが嫌で、お腹が痛いと言っていて、用務員の人に自転車で家まで送ってもらったこともありました。あの時は、家に帰ってから、ばつが悪かったなあ!

小学校は、すぐ近くの大池小学校でした。おとなしい内気な子供だったようです。小学校4年生の時、祖母が直腸ガンで逝きました。人が死ぬということを初めて知りました。家で亡くなって、往診にきた医師が祖母の心臓に10センチもある注射を刺していました。今から思えば、あの時、心臓が止まっていたのでしょう。母が、泣きながら、私の手を祖母の胸にあてて、”まだ暖かいだろう”といいました。私は、祖母が、もう死んでしまったことを理解できたのですが、なにか、ちょっと気持ち悪いような気もしました。でも、あの時のなま暖かい感触をはっきり覚えております。この後、祖母に触れたのは、出棺の時で、おでこに触ったと思います。それは、それは、とても冷たかった。死ぬと言うことが、どんなことなのか、少しわかったような気がいたしました。火葬場には、一緒に行きましたが、もう一度、そこへは、連れていってもらえませんでした。父と母は、骨壺を持って、帰ってきました。骨が、とてもバサバサしていたのを覚えていません。

人が家で、死ぬということは、当時としては、別に珍しいことではなかったようです。今では、ほとんどの人が病院で亡くなります。”死”というものを、身近に受け入れる機会が、失われているようにも思えます。国の発展、医療の発達、もたらした弊害ともいえます。

小学校時代の私は、5年生になるまでは、目立たない普通の子でした。私にとって、5、6年生の時期は、特別の意味を持ちます。担任の松野先生です。この先生は、図画の先生で、子供をひきつけるのが上手な方だったと思います。たいいていスバル360で出勤してこられて、校門のところに、置かれます。私たちは、この車で、先生が来ていることを区別していました。松野先生は、私たちにバズ学習というものを試みてくださいました。グループで話し合っ、その結果をグループの代表が発表しあうというものでした。テーマがあれば、それを家で調べてきて、発表するのです。私にとって、こんな宿題は、初めてでした。ドリルとか、そんなものではない新しい勉強のスタイルでした。テーマに従って自由に調べられるのです。この時期、私は少しずつ変わり始めました。

中学は、豊中第二中学校、勉強ではいつも先を越されていた姉を理科でだけ追い越せるということを実感した時期でもありました。理科のテストは、たいいていクラスで1番でした。自分には、これしかない、と思いました。しかし、今は、事務員をしております。世の中わからないものです。

高校は、大阪府立豊中高校の受験に失敗しまして、私立追手門学院高等部へ行くこととなります。受験に失敗した痛手が、結構きつ々しまといました。でも、私学の自由な雰囲気は、私の人生を変えることとなります。もし、進学校である豊中高校にいったら、堅物の人生が待ち受けていたでしょう。スムーズにやってきた人が、決して良い人格者でないといわれる、そんな人間になっていたと思います。追手門の自由な校風が、まったく違った3年間をもたらしてくれました。

よいのか、悪いのか、進学クラスというのが1クラスあって、私は、そこに属していました。ほとんど3年間、同じ、構成でした。親しい友は、その時期にできました。いろんな意味で、青春時代の始まりでした。

大学への進学は、自由勝手にやっていた私には、きつい障壁となり、1年間の浪人を余儀なくされました。豊中にあるYMCA予備校に行くこととなります。嫌な暗い時期でした。

翌年の受験で、幸いにもいくつかの大学に合格し、同志社大学に入ることとなります。工学部化学工学科、学籍番号6250番です。しかし、大学の勉強は、退屈で、授業の後で質問にいった物理化学の教授の不親切な対応に、しっかり勉強

する意欲を失いました。同志社関係の方は、このことをよくよく、反省してほしいのです。それだけではありません。大学院の受験システムが、問題あります。私は、受験して、合格点以上をとりました。しかし、減点制度がありました。テニスばかりしていたので、平常の点数が悪く、設定されている点数より低かったのです。実力でとった大学院入学試験の点数から、それに見合ったぶん減点されるのです。ぎりぎり、不合格となりました。教育機関にこんな仕組みがあつてよいのでしょうか。許されざることです。自分で、実力で勝ち取ったのなら、認めてあげるべきです。キリスト教精神とは、思えません。もう、20年も前の話ですが、もし、この悪習が生きているなら即刻中止すべきです。

幸い私は、別の道が開けました。近畿大学の西川先生が受け入れてくれたのです。蛍光分析の権威者でした。私にとって、同志社と近大との違いは、教師の熱心さでした。院生だけでなく、学部のものにも一生懸命教えられます。西川先生の授業は、まるで小学校の授業のように懇切丁寧で、教授というイメージを払拭するものがありました。同志社の先生方との、決定的な違いです。大いに、反省してもらいたいものです。2年後、修士課程を終えましたが、当時は、就職難

で希望する就職先がなく、西川先生のすすめで、近くの付属小中学校、高等学校の理科の助手を1年いたしました。つまらない、日々でした。このころ、私を理解してくれる一人の女性があらわれました、もし、その人と結婚していたら、どうなっていたでしょうか。まあ、よくある、回顧録のパターンですね。甘辛い時代でした。

教師の免許状をとったのは、その前後でした。京都教育大学の山本俊夫先生が、熱心にすすめられるので、その熱意に負けたのがきっかけです。私は、教師になるのと、事務員になるのは、子供の頃から嫌だったのです。私は、技術者であり、研究者でありたいのです。しかし、山本先す。大いに、反省してもらいたいものです。2年後、修士課程を終えましたが、当時は、就職難

で希望する就職先がなく、西川先生のすすめで、近くの付属小中学校、高等学校の理科の助手を1年いたしました。つまらない、日々でした。このころ、私を理解してくれる一人の女性があらわれました、もし、その人と結婚していたら、どうなっていたでしょうか。まあ、よくある、回顧録のパターンですね。甘辛い時代でした。

教師の免許状をとったのは、その前後でした。京都教育大学の山本俊夫先生が、熱心にすすめられるので、その熱意に負けたのがきっかけです。私は、教師になるのと、事務員になるのは、子供の頃から嫌だったのです。私は、技術者であり、研究者でありたいのです。しかし、山本先生の紹介で、聖マリア養護学校（京都市北区）に奉職することとなりました。肢体不自由の養護学校で、私自身つとまるかどうか、自信はありませんでした。このころは、結構なげやりな気持ちの人生を送っておりました。

校長のアントニアは、魅力的な方で、私にとってよき理解者でありました。でも、私は、アントニアをそれほど、理解できなかったかもしれません。純粹な方でした。ここでの生活は、退屈で、自分の力を発揮するすべがありませんでした。退屈を紛らわしてくれたのが、パソコンでした。コンピュータが個人で買えるような価格となり、メモリ3Kのマシンを買いました。これをきっかけに、コンピュータ教育にのめり込んでいきました。半田ごとの生活が、始まりました。いろんなところで、発表し、論文、特に、懸賞論文に意欲的に応募しました。まるで、彗星のような日々でした。

マリアが、だんだん、悪いように変わってきたのは、採用して下さった校長が代わってからでした。一緒にやってきた同僚がひとり、また、ひとりと辞めていきます。学校内の雰囲気だんだん暗くなっていきます。そして、私が、次の標的となりました。私学というのは、結構このようなことがあるようで、追手門の恩師も2人とも、学校を去っておられます。マリアについては、良いことも、悪いことも全部見ました。

十数年の教師生活に別れを告げて、京都大橋総合病院へは、1991年に転職したはずですが。世間というのは、こんなものかと、初めて知りました。教師が世間知らずというのを実感しました。でも、普通の人なら、嫌になるような仕事でも、我慢してできたのは、養護学校教師時代のなんでも取り組む姿勢のおかげだと思えます。それが、なかったら、辞めていたでしょう。今は、自分にあてがわれた仕事もやっておりますが、結構便利屋的な存在であります。しかし、それで、満足している一面もあります。私の大橋時代は、まだ、これからです。我が事ながら、どないなるか楽しみです。

結局、今は、家族を養うだけの、人生を送る日々となりました。この平凡さが、普通の人生なのかもしれません。

最後に、結婚の話と子供の話が抜けていましたので、補足します。。聖マリア時代のアントニア校長の計らいで、ある女性（妻）とめぐりあい、生活を始めました。長女、長男、次男の3人の子供に恵まれています。

私のパソコン歴

渡辺 昇

パソコンは、パーソナルコンピュータの略です。昔は、マイコンといわれてました。myコンピュータもしくは、マイクロコンピュータの略だったと思います。

私のパソコン歴は、もう、10年以上になります。始めが、1982年だったか、1983年だったか、記憶がさだかではありません。

-
- ・私の一号機 一号機は、PETというオールインワンの機械でした。キーボードが、すごくちゃちで、中古品でした。中古のために、キーボードの一つは、押したら上がってこないぐらい痛んでいました。使い初めて1週間ぐらいで、壊れてしまい。クレームの初体験をしました。
 - ・私の二号機 幸い、文句を聞いてくれまして、差額で買った二号機は、VIC1001というメモリ3Kのマシンでした。カラーが使える、カナ文字が、表示できる。画期的な、低価格マシンです。
 - ・私の三号機 そのころ、富士通から漢字の表示できるマイコンが発売されました。FM-8と7でした。ちょうど、併売されている時期で、どちらにするかささん迷ったのですが、FM-8の方が、重厚感があったので、そちらにしてみました。実は、機能的には、FM-7の方が、上だったのですが、見栄えて選んだことについて、特に、反省はしておりません。このFM-8は、後に、職場へ寄付した。今は、どうなっていることやら、
 - ・私の四号機 次は、富士通の16ベータか、98にするか、結構迷いました。しかし、情報量が圧倒的に98でしたので、選択肢は、これ以外にはないと決めました。VM2をディスプレイと一緒に40万で買いました。高かったね！
 - ・私の五号機 その次は、えーと・・・ 順番がこの辺から、わからなくなる。順不同かもしれませんが、8801の中古、ハードの勉強用に買ったもので、8ビットのインターフェイスボードを自作しました。後に、FM-8にも、インターフェイスボードをつけました。98にも、つけたね。
 - ・私の六号機 職場での、コンピュータ教育用にVM2をもう一台。これは、なぜか、フロッピーディスクの不良が続き、没。修理しても、信頼できない。
 - ・私の七号機 ・・・・というわけで、売り払って、エプソンのPC-286VEを現品処分で購入。これは、事務室へ寄付同然。
 - ・私の八号機 パソコン通信で知り合った方から、教育用にといい、MSX機1台。感謝です。これは、訓練士の方へ、子供の訓練用に、引き継ぐ。使ってもらえてたらよいが・・・
 - ・私の九号機 ノートパソコン一号機として、PC-9801NS20。これは、職場で、会議の議事録用に、使用。何とか、生き延びている。しかし、フロッピーディスクは、壊れた。ディスプレイの蝶番も、破損中。修理費用が、出ない。さらに、ハードディスクが、お釈迦になった。倉庫に眠ったまま。かわいそう！
 - ・私の十号機 初の、マック導入。LC520登場。インターネットは、これから。2台目のマック購入ももろんだが、必要性に乏しいため、保留中のまま日が過ぎている。
 - ・私の十一号機 エプソンのPC486SR。職場にて使用している。いうまでもなく、ウィンドウ上で、各種アプリを使う。遅い。コンパクトなので、小さいコンピュータ台に載せて会議などの議事録用に使う。今は、婦長室に寄付同然。
 - ・おまけ ザウルスの一番はじめの機種です。データを勇んで入力したものの、重たさに負け、上着のポケットから鞆の中へ、果ては、引き出しの中へ、さらには、子供の玩具となってしまいました。私の友人で、同じ機種を便利だと言って持ち歩いているのがいるが、気が知れない。これは、なぜか壊れて破棄。
 - ・FMV DESKPOWER C どうとうDOS/Vを手に入れました。ペンティアム90の一体型パソコン、私も、タッチおじさんの仲間入りです。大切に使いたいですね！今は、職場に持ち込んで使っております。前のマシンと比べて快速、よい環境になりました。エクセルのマクロもよく動きます。メモリを8Mから16Mに、そして、今は、24Mで使っております。
 - ・九十九電気オリジナルパソコン デスクパワーは、職場にて使うことにしました。自宅では、九十九電気のオリジナルパソコンTS-SERIESのペンティアム120ミニタワー型を使うことにしました。初めてのタワーよろしいですね。なんと言っても安い、13万五千元。これも大切に使います。私もそうだったけれど、初心者の方は、メーカー品を買おうとするけれど、アフターサービスがよいという理由らしい。でも、大したアフターサービスは、得られない。それなら、ショップのオリジナルパソコンは、安いし、同じ性能だし、これこそ買いだ！
-

MS-WINDOWS 98 レポート

渡辺

1998年4月19日

今回特別に、事務局で毎週開催されている「Visual BASIC講座」に参加されておられる渡辺氏に「MS-WINDOWS98 ベータ版」のレポートをお願いいたしました。

window98(以下W98)の記事が新聞雑誌にもいろいろと掲載されるようになってきました。あと少しで発売のW98。私も、β3版をさわってみる機会に恵まれましたので、どんなもんじゃろか！ …と興味本位で使いはじめました。プロの記事とは、またひと味違ったレポートを書かせていただくことにしましょう。聞き飽きた言葉だが、ベータ版であり、製品と異なることを付け加えておく。

○ ハード構成

使用したマシンの構成は、ありきたりのマシンだ。九十九電気のオリジナルパソコンでTSUKUMO TS-SERIESだ。主な構成は以下の通り。でも、このマシン富士通のよりも安定しているし、気に入っている。

CPU ペンティアム120MHz, メモリ48MB(EDO),
CD 8倍速, VGAは、不明だが2MB,
CRT 15インチ 1024×768で使用
Printer エプソン LP1500-S
// MJ-500C
CanonBJC-240j など

このほか、デジカメやスキャナなどもテストしたが、紙面の都合で省略。

○ ソフト構成

office pro 97からFreeのソフトまでいろいろ

○ 試用時間

正確にはいえないが、50時間ぐらいかな！

○ インストール

インストールには、30分ぐらいかかる。アプリのインストールと同じイメージだ。問題があった。1つのdllが、CDにないというメッセージがでた。やむえず、スキップしてインストールする。今のところ問題はでていない。

○ OS 付属のソフト群

ユーティリティは、強化されている。羅列だけに過ぎないが、WBEMセキュリティ、FAT32コンバータ、microsoftシステム情報ユーティリティ、WINDOWSチューンアップ、システムファイルチェッカー、スキャンデスク、デフラグ、受信トレイ修復ツールと、しばらくは、楽しむことができそうなツールが目白押しだ。これに、うわさのPlus98が加わったらと思うと、わくわくしてくる。欲を言うなら、ウイルスチェッカーもつけてほしかった。

○ 改善点

改善点をあげていても、すでに情報を手に入れた人にとっては、陳腐なだけかもしれない。でも、一応は、W98レポートなので羅列だけしておく。

- ・ FAT16からFAT32への変更
- ・ ファイリングシステムに、DVD, CD-RWのUniversal Disk Format採用

- ・ USB, IEEE1394, AGP, ACPI, DVDのサポート
- ・ リムーバブルメディアへの遅延書き込みサポート
- ・ 多彩なユーティリティの添付(これだけは、別にレポートあり)
- ・ マルチディスプレイ
- ・ ウィンドウの中での画像アイコン表示

○デスクトップ環境

デスクトップ環境で便利だと思ったのは、My documentが、デスクトップに並んでいることぐらいだろうか？ しかし、しばらくして気のついたこと、このアイコンは、全然使わない。結果として、私には、必要ないアイコンであった。デスクトップでのWeb表示も使わないし、無駄にメモリーを使いたくはないので、スクリーセーバーも、壁紙もなし、初めはいいけど、やっぱり飽きてしまうのだ。

プルダウンメニューが巻紙のようにするするとでてくるのは、目新しいが、興味をそそるほどのものではない。いろいろと綺麗になってはいるが、まあ、こんなものか。こういったことのグラフィック処理に時間をとられて、本来の業務であるアプリの速度に影響を与えないでほしいと思うのは、年のせいだろうか。

変わったのがマウスポインタ、アイコンの上にくると四角になる。視覚的には、そのアイコンが指定されたことがわかりやすいのでよいと思われるが、もう少し他の形にしてほしかった。まあ、これは、ユーザーの好みでカスタマイズできると思うが・・・

○GUIの今後

私たちが、本当にコンピュータに望んでいるものは、何だろうか？それは、近未来のパソコン環境ではなかったはずだ。あまりにも現実に没頭しているため、本当の姿がどうあるべきか忘れてしまっているだけだ。

GUIは、確かに、我々をキーボードから解放し、マウスをはじめとする新たなインプットデバイス環境を提供してくれた。しかし、このGUI環境は、望むべき姿に向かうためのワンステップにすぎないのだ。インテリマウスをはじめとする新しい環境も一つの方向性かも知れないが、お茶を濁している感はいなめない。ここで付け加えておくと、Intel mouse のWheel の代わりに、トラックボールを付けてほしい。これは、きっと使えるはずだから。さらに、トラックボールを押すとクリックできるようにするとよりよい。なお、スイッチは固めにしてほしい。さらに、キーボードも、いろいろなタイプが試みられたが、タイプライターのそれと同じ配列が未だに続いている。これは、20年前にさかのぼるどころの騒ぎではない。新しいタイプのキーボードが普及しない。

本論に戻るが、コンピュータでは、音楽も、声も、綺麗な静止画も、動画も実現したかも知れない。そして、TVとの融合する日も近い。モバイルも、実用的なレベルに達した。でも、コンピュータは、私につかず離れず、いつも温かく見守ってくれている秘書には、まだ、ほど遠い。会話は、できないし、私の気分を気遣って対応することもない。お茶を出してもくれない。もちろん、お使いができるわけではない。キー入力の一つ間違えるだけで、しっかり動かなくなるのは、何十年前と同じなのだ。

”それなら、GUIの老家マックだ！”という人もいるかもしれない。しかし、今となつては、マックもウィンドウもどれだけ違うというのだろうか。結論からいうなら、パソコンのGUI環境は、すでに、一定のレベルにまで達したのだ。だから、これからは、マックでもない、ウィンドウでもない、次世代のコンピュータ環境がほしいのだ。ややこしい、新OSは、いらぬ。

結局、この次世代の環境が見えてこない。音声合成や音声認識が、環境を一変させるとは思えない。人工知能の研究もうやむやだ。新しい環境が見えてこない。人の入力機器である五感と、出力機器である手足をはじめとする体全体を今一度見直さねばならない。

そして、ここに至るアプリ環境の難しさ、煩雑さ、「誰もが触れる近未来のコンピュータ」は、何だったのだろうか。優しいどころか、複雑にかつ、難しくなるばかりだ。機能は、どんどん増えてくる。パソコンおたくですら、扱いに困るほどだ。よって、家庭で眠っているパソコンが急増中となる始末、粗大ゴミの氾濫だ。

アプリの難しさの要因は、GUI環境が足を引っ張っているという考え方もできる。パラドックスを思う人もいるかも知れないが、GUI環境がマウスの操作を増加させ、キータッチよりも多くの神経を配らねばならなくなっているからだ。慎重に、GUIの弊害を検討せねばならない。このことに気づき始めている人は多いはずだ。もう、マックでも、ウィンドウでも同じことだ、同じ弊害がでている。現在のGUI環境でのチューンアップは、来るところまできている。

○ 私たちの今後はマイクロソフトに任せてよいのか？

私は、マイクロソフトの敵と認識したものをどんどん食いつぶすやり方には、賛成できない。反論はあるかも知れない。Appleを救ったではないかという意見だろう。でも、それは嘘だ。ゲイツは、自分に利益なしで共生する道を選ぼうとしない。息の根を止めるまで、手をゆるめることはない。

だから、ゲイツが、頂点に立ち、権力を完全に握ったとき、だれが、マイクロソフトに倫理を教えるのだろうか。私

たちは、いつまでも、いいなりでよいのだろうか。マイクロソフトに対抗できるのは、sunでも、オラクルでも、just systemでもない。私たち、一人一人だ。さらに、前述の全く新しい環境が登場したときだ。

○困ったこと

圧縮がよくわからない。ドライブスペースが見あたらない。どうなっているのか？ZIPの圧縮されたディスクが認識されない。なんでー！

起動時に、ディスクのエラーが発見されると、スキャンディスクが実行される。これには、時間が結構かかる。厳密なのがいいが・・・？

音が出ない。よく見たら、ボリュームがゼロになっている。そんなばかな？ ベータ版だから許せるけど。

インターネットの接続は、一発ではいかない。いろいろやって、やっとつながる。一回でつながらないこともある。不安定だ。

使い込んでくると、やはり、ハングアップが発生し始める。やはり、W95といっしょか？

○まとめ

そろそろ、まとめをしてこのレポートを終わることにしよう。どうやら、ペンティアム120MHzのマシンでもW98は、十分に動くようだ。通例ならば、バージョンアップのたびにユーザーは、重いOS(アプリ)をあてがわれるものなのに、今回のバージョンアップは、ユーザーフレンドリーな仕上がりととなっている。よって、大変評価できる。ビジネスに限ったならば、ペンティアム100MHzクラスのマシンであれば、買い換えを考える必要がないのかもしれない。W95から、W98への2年あまりの間にプログラムの最適化がはかられ、「チューンアップされたW95」として、再生したといえ、誉めすぎだろうか。なお、早くなったという話だが、これは、しっかりと体感できるほどのものではない。

しかし、今、ここでふと我に返ろう。いったい何のためのバージョンアップだったのだろうか。全くのエンドユーザーにとっては、使い勝手はほとんど同一、Win3.1からW95の時に見られたようなドラスティックな変化はない。あえていうならば、刺激が少なすぎるのである。もっと、何か目新しいものがほしいのだ。目立たないところが改善されているので、素人目には、海が凧いているという感じがする。では、玄人受けするのかもしれない、そうでもない。やはり、NTへの布石としての通過点ならぬ、通過OSなのだろうか。インターフェイスの研究も、精一杯やってほしい。環境改善の成果を見せてほしい。

なぜなら、今、安定しているW95マシンをW98へ無理してアップする必要は薄れてくるからだ。アップするだけの環境改善がなければ、説得力がないのだ。特にビジネスであれば、寝る子を起こすことになりかねない。W98の発売が、いつでもW3.1から、W98へ乗り換えられるという安心感を作り、ユーザーがW3.1に安住してしまう可能性もなきにしもあらずである。

世界には、いまだ、Win3.1ユーザーがたくさんいるという話だ。これらの人々は、W98へ移行する道を選ぶだろうか。世界的に見れば、w95の発売時のような盛り上がりはないかも知れない。日本人は、新しい物好きだから、こそってW98へ移行するだろうけど。という私も、そのひとりである。

最後に、書ききれないことがたくさんあるが、これからは、雑誌や本で山のようなW98情報が飛び交うことになるだろう。情報におぼれることなく、快適なパソコンライフを送られることをお祈りしております。

@なべ@

会計よりお知らせ

新事業年度に入りました。

本事業年度の会費の納入はなされましたでしょうか。

当会では、納入期限を3ヶ月経過しますと例外を除き会報の発送と会員の資格を失いますのでご注意ください。

未納入の方は下記いずれかにご連絡下さい。

会計 中辻 実

会長 圓口 佳昭

事務局 増田 則雄 Tel075-981-0063

**新規部会
開催要求及び
申込の受け付け**

事務局 増田

新事業年度に入り会では、会員の要望により新規部会の発足と、部会の登録をお願いしています。

各部会は、パソコンの「今！」を知るために、皆さんが知り得る情報や、利用技術を習得するための講座などを開催して、会員相互の頭脳戦やしにしていくために、貴方自身でつくる研究会なのです。

しいたい放題、思い付きでもがまはしません。連絡をお待ちしています。